

市長の伊賀じまん



— 伊賀の芸術家たち —

伊賀出身の芸術家といえば、国内外で活躍された榊莫山さんや元永定正さんなどが有名ですが、ある日突然伊賀に誕生したわけではなく、登場する素地がこの伊賀には脈々とありました。直接的なルーツをたどると元永さんの師匠は浜辺万吉さん、その師匠は奥瀬英三さん、その師匠は中村不折さんであり、先人に教えられ学んできたからこそ、その才能が花開いたといえます。また、美人画で有名な岡本大更、明治・大正・昭和期に文人画の中でひとつの大きな流れをつくった池田雲樵、桂仙親子なども伊賀ゆかりの画人です。

平成15年に「アートオブイザン・コレクション」という企画展が上野歴史民俗資料館で行われ、伊山文庫の所蔵する伊賀に縁のある芸術家の作品が展覧されました。そのときご覧になった人は、こんなにたくさんの方がこの伊賀の地で芸術活動を成しえてきたことに驚かれ、その画技の素晴らしさに感動されたのではないかと思います。また、地元の人だけでなく、江戸時代の史家頼山陽や明治・大正期の文人画で著名な富岡鉄斎などといった日本の歴史に名を残す文化人も、月ヶ瀬の梅を見に伊賀を訪れており、作品が

▶アートオブイザン・コレクションで展示された「春秋図屏風」(池田桂仙作)



残っています。

こういった近代・現代の芸術家たちの作品は、目にする機会がありますが、もっと古い時代にはどんな人がいたのかご存じでしょうか。時代をさかのぼると、藩主たちも家臣や文化人と共に、絵を描いたり、詩を作ったり楽しんでいます。伊賀を愛し、長田の山に葬られた藤堂藩主3代目藤堂高久や崇広堂を創設した10代目藤堂高兎が描いた絵も残されています。

床の間に掛け軸がかけてある家では、よくご覧になると明治から昭和初期にかけて地元で活躍された画家の絵がかけられているかもしれません。掛け軸のサインから作者を知ること、また興味が深まるのではないのでしょうか。

伊賀は芸術・文化に対する関心が高い地域性を持っています。これは江戸時代から近代という長い時間をかけて培われてきたものです。芸術を身近に鑑賞できる、感じられる場を早く実現し、伝統を受け継いでいきたいと思っています。

(伊賀市長 岡本 栄)

◆ 日頃からかかりつけ医を持ち、体調管理に努めましょう

応急診療所だより

【問い合わせ】医療福祉政策課

☎ 22-9705 FAX 22-9673

市民の皆さんの生命と健康を守るため、休日・夜間に発病したときに、内科・小児科の応急医療が受けられる応急診療所を開設しています。

※応急診療所は応急処置を行うところです。日頃から、かかりつけ医を持つことを心がけ、身体に変調を感じたときは、早めに医療機関を受診しましょう。



◇ 応急診療所受診に際してのお願い ◇

- 健康保険証・受給者証・薬を服用している人は薬の内容がわかるものを持参してください。
- 悪天候(台風、積雪など)時には、やむを得ず休診する場合がありますのでお問い合わせください。
- 薬の調剤は院外処方です。連休・年末年始を除き処方は原則1日分です。
- 点滴やレントゲン検査はできません。

■ ロタウイルス感染症 (ロタウイルス胃腸炎)

ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児期(0~6歳頃)にかかりやすい病気です。ごくわずかなウイルスが体内に入っただけでも感染してしまいます。

ふつう、5歳までには、ほぼすべての子どもがロタウイルスに感染するといわれています。大人はロタウイルスの感染を何度も経験しているため、ほとんどの場合症状は出ません。

しかし、乳幼児は激しい症状が出る事が多く、初めて感染したときの症状は特に強く出ます。症状は、2~4日の潜伏期間の後、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛です。

ロタウイルスは感染力が強く、容易に拡大してしまいます。原因は、ロタウイルスに感染した便を処理した後の手洗いが不十分な場合や、ウイルスが付いた手や爪などから感染が広がっていきます。十分な手洗いを心がけることで感染を防止しましょう。

伊賀警察署だより



特殊詐欺にご注意を！

昨年、県内での振り込め詐欺などの特殊詐欺は、発生件数・被害額ともに大幅に増加しています。

市内では警察官を名乗り「犯人を捕まえたらあなたの通帳が見つかった」などと話し、通帳やキャッシュカードなどを要求する電話が多数かかってきました。警察から電話をかけ、現金などを預かることや暗証番号を聞き出すことは絶対にありません。また、レターパックを利用する手口が増加しています。電話で相手から次のことを指示されたら、特殊詐欺を疑いましょう。

○レターパックで現金を送るよう指示された
○レターパックの差出人を未記入または「同上」と記載するよう指示された

○内容物を「食品」「本」などと別の物を記載するよう指示された

少しでも不審だと思ったら、一人で悩まず、家族や警察に相談しましょう。

【問い合わせ】 伊賀警察署 ☎ 21-0110

名張警察署 ☎ 62-0110

公共交通を利用しましょう

今後、一層必要になる公共交通のご利用を！

車を持つ人が増え、公共交通を利用する人が減ったことで、地域住民の生活に欠かせない公共交通を維持することが難しくなっています。

一方で、マイカーの普及により高齢者や子ども、学生をはじめ運転免許証や車を持たない人は、出かけるときに家族などに車で送り迎えをしてもらうことが増えており、車を持つ人にとって送迎が負担となってきました。高齢者が、車を運転できない高齢者を送迎する実態もあり、高齢になって安全のために運転免許証を返上したいと思いながら運転を続けている人もおられるのではないのでしょうか。

今後、少子高齢化がさらに進み運転免許証や車を持たない人が増えると、今以上に鉄道やバスが必要になります。将来、車以外の交通手段がないという状況にならないよう、また、誰もが住み慣れたまちで快適に暮らし続けられるよう、積極的に公共交通機関を利用しましょう。

【問い合わせ】 総合政策課 ☎ 22-9663 FAX 22-9672

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

私の知らない多様な伊賀市 — 島ヶ原支所振興課 —

■このコラムは毎回いろいろなテーマで人権についてお話しています。

伊賀市に住んで40年、私は伊賀について何でも知っていると思っていましたが、まだまだ知らないことがあることに気づきました。

昼食をとるため料理店を探していて、あるタイ料理店を見つけました。私たちは色鮮やかなメニューの中から、パッタイ(タイ風やしそそば)を注文しました。料理はとても美味しく、すぐに平らげました。後日「伊賀市・タイ料理」で検索するとほかにも数店舗のタイ料理店があるとわかり、驚きました。大阪や神戸のような大都市でなく、なぜ伊賀市にタイ料理店があるのだらうと思ったのですが、平成24年12月31日現在で、伊賀市の国籍別外国人住民の数を見ると、ブラジルが約2,100人以上、中国約800人、ペルー約500人、韓国約300人、ベトナム、タイがそれぞれ100人以上であり、実に多くの外国人が伊賀市に住んでいることがわかりました。

さて、皆さんは「伊賀市指定ごみ袋」に多くの外

国語が書かれていることをご存じでしょうか？一度ご家庭の指定ごみ袋を確認してみてください。日本語を含む7つの言語で書かれていることを、私は今まで知りませんでした。伊賀市はいつの間にかこんなにも国際的な都市になっていたのだと、驚き、感心したのと同時に、可燃ごみ収集でいつも見ているはずの指定ごみ袋に何が書かれているか、無関心であったことに、恥ずかしい気持ちになりました。

日本人だから、伊賀市に長く住んでいるから、何でも知っているという思い込み・過信で、多様な面を知ることを妨げていると気づきました。先入観や偏見をなくして見てみると、きっと知らない伊賀市の一面を知ることができ、自分の考えを広げてくれると思います。お互いを知り、理解することで、日本人、外国人を問わず、共に暮らしやすく、互いに優しい伊賀市にできるのではないのでしょうか。

■ご意見などは人権政策・男女共同参画課 ☎ 47-1286 FAX 47-1288 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ